



金沢工業高等専門学校

教育情報 公表資料

平成 29 年 5 月 1 日現在

目 次

1. 教育研究の目的・構成・取組み	1
1.1 建学綱領	1
1.2 教育目的・目標	2
1.3 高専の構成	3
1.4 三つの方針について	3
2. 学事運営組織	4
2.1 学事運営組織と役割	4
2.2 教育支援・学習支援組織と機能	5
3. 教員	8
3.1 教員の構成	8
3.2 専任教員	8
4. 志願者・在学者・卒業者の状況	10
4.1 志願者・入学者の状況	10
4.2 在学者の状況	10
4.3 進路状況	10
5. 授業	11
5.1 本校教育の特色	11
5.2 主要科目の特長や目標等	13
5.3 各学科で修得する知識・能力	15
5.4 学習支援計画書（シラバス）	16
5.5 単位認定と成績評価	17
5.6 進級条件及び卒業要件	19
5.7 アンケート調査及び教育改善	20
6. キャンパス構成	21
6.1 キャンパスの所在地と構成・概要・交通手段	21
6.2 健康・体育施設	21
7. 入学金・授業料・その他の費用	23
7.1 入学金・授業料等	23
7.2 寮・下宿	24
8. 課外活動と課外学習	25
8.1 学生会	25
8.2 学科・研究室・教育支援センターによる課外の学習プログラム	25
8.3 夢考房プロジェクト	25
8.4 地域連携への取り組み	26
9. 外部評価の状況	27
10. 財務情報	28

データ等は平成 29 年 5 月 1 日現在のものです。

1. 教育研究の目的・構成・取組み

1.1 建学綱領

(1) 教育理念

金沢工業高等専門学校（以下本校）は、金沢工業大学園が定める建学綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究の実践を通し社会に貢献します。

【三大建学綱領】

高邁な人間形成：我が国の文化を探究し、高い道德心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成します。

深遠な技術革新：我が国の技術革新に寄与すると共に、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成します。

雄大な産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

(2) 本学園の建学精神

本学園の建学の精神は、本学園の母体である北陸電波学校初代理事長故嵯峨保二氏の高邁な建学の理念を継承し、これを具現することです。その精神を一言にして要約すれば、全人類の普遍原理たる人間主義の哲学であります。

この建学の精神は、創設以来、本学園の向上発展に鋭意邁進された創設理事泉屋利吉氏によって真摯に継承され、且つ、本学園が法人名を学校法人金沢工業大学と改称し、日本の最高学府たる高等教育機関として躍進するにあたり、建学の綱領を「人間形成」「技術革新」「産学協同」と定め、これを三大旗標として掲げたのであります。

それは、日本人としての誇りと確固たる精神を矜持し、国際社会に寄与し得る人材、次代の技術革新を担い得る人材、そして人類の豊かな発展を継承し得る人材の育成と産学一体の学術探究とを目指すものであります。

従って、本学園の理事、教職員並びに学生は、日本国民の師表たる決意をもって、自己の人間形成に努め、相互に切磋琢磨を行ない、全学が和衷協同の理念に徹し、そして日本文化の進歩と世界平和の建設に貢献することこそ建学の精神具現への道であることを深く銘記しなければなりません。

1.2 教育目的・目標

(1) 教育目的

本校および各学科における教育目的は次のとおりです。（以下、金沢工業高等専門学校学則より）

金沢工業高等専門学校学則 「第1章 目的及び使命 第1条」抜粋

金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するため教育を行ない、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを使命とする。

金沢工業高等専門学校学則 「第3章 組織及び定員 第6条、第6条の2」抜粋

本校に次の学科を置く。

電気電子工学科

機械工学科

グローバル情報学科

1. 電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
2. 機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする。
3. グローバル情報学科は、情報技術に関する専門的能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できる技術者の養成を目的とする。

(2) 教育目標

本校では、教育の根本は「人間形成」にあるという考えのもと、本校の教育は、エンジニアであると同時に個人あるいは社会人としての義務と責任を理解・実行でき、他の模範となる自主・自立型の卒業生を育成するとし、その教育目標を「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」と定め、この教育目標を達成するために、次の実践目標を掲げています。

【教育目標】

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」

【金沢高専 2020Vision】

本校は、教育改革の完成年となる 2020 年（平成 32 年）に金沢高専がどう在るべきか、果たすべき役割は何かなどについて意見を出し合い、平成 26 年 4 月 1 日、進むべき方向と行動の指針として次の 5 つを柱とする「金沢高専 2020Vision」を掲げました。

1. 学生個々の「人間形成」を第一義とする
2. イノベーションを起こす人材の卵を育てる
3. グローバル人材の育成
4. 金沢高専・金沢工大・大学院の進学コースの再構築
5. 魅力ある学校づくり

金沢高専 2020Vision は、<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/information/principles/vision/> で紹介しています。

1.3 高専の構成

- 電気電子工学科
- 機械工学科
- グローバル情報学科（平成 27 年 4 月 1 日設置。これに伴い、グローバル情報工学科の学生募集を停止。）

(1) 入学定員及び収容定員

入学定員は、電気電子工学科 40 名、機械工学科 40 名、グローバル情報学科 40 名、計 120 名で、平成 29 年度の収容定員は表 1-1 のとおりです。

表 1-1 平成 29 年度入学定員及び収容定員

学科名	入学定員	収容定員
電気電子工学科(1～5 年次)	40	200
機械工学科(1～5 年次)	40	200
グローバル情報学科(1～3 年次)	40	120
グローバル情報工学科(4～5 年次)	－	80
合 計	120	600

単位：人

1.4 三つの方針について

(1) 入学者受け入れ方針（アドミSSION・ポリシー）

アドミSSION・ポリシーを、①エンジニアとして社会に役立ちたい人、②基礎学力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人、③英語でのコミュニケーション能力を高めたい人、④何事にも積極的に挑戦する意欲のある人、⑤誠実で、他人を思いやることのできる人とし、志や意欲などを重視しています。入学試験では、推薦試験、一般試験ともに面接を実施しています。

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーターの育成」を教育目標に、創造実験・設計を支柱とする専門科目と一般科目をくさび形に編成したカリキュラムにより、実践的・創造的技術者を養成する 5 年一貫教育を実現します。

(3) 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

電気電子工学科は、電気・電子工学及び情報技術分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第 5 学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

機械工学科は、機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第 5 学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

グローバル情報学科は、情報分野の専門知識と技術、ビジネスに関する知識、並びにグローバル社会に対応できる英語でのコミュニケーション力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第 5 学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

グローバル情報工学科は、情報技術分野に関する専門的能力及び英語による国際的なコミュニケーション能力を有する実践的技術者の養成を目的とする教育実践により、準学士（工学）と称するに相応しい学力と人間性を備え、且つ、第 5 学年の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

2. 学事運営組織

2.1 学事運営組織と役割

学事運営の組織構成と各委員会等の役割を示します。

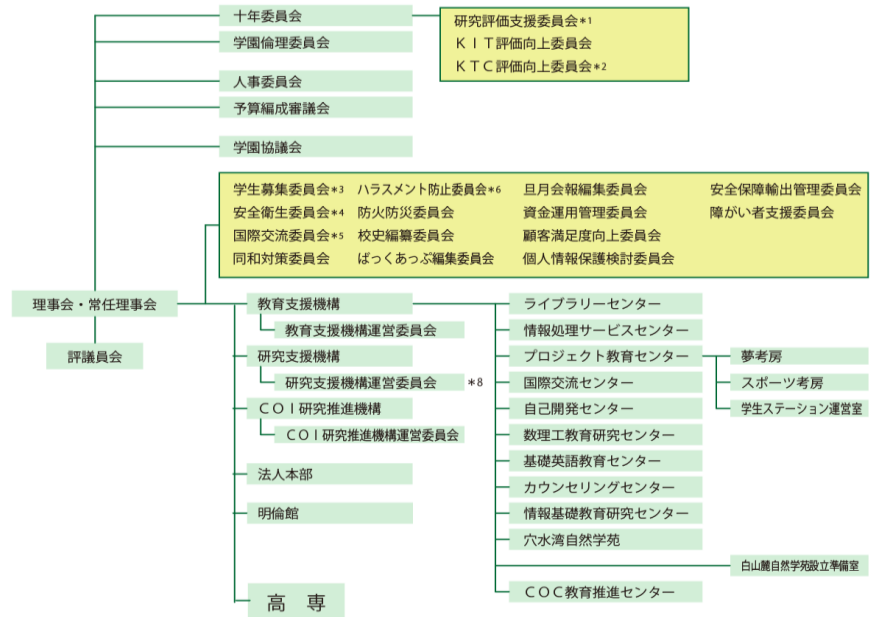


図 2-1 学園組織図

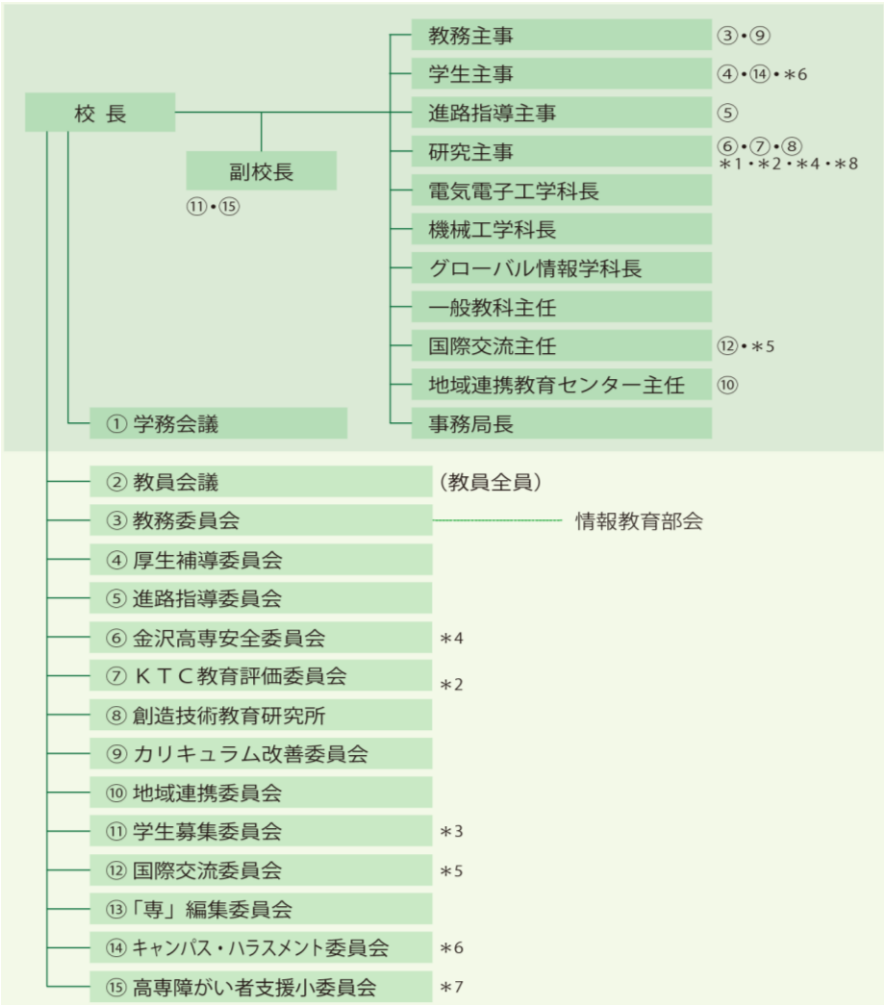


図 2-2 高専組織図

1. 学務会議（図 2-2 ①）

校長、副校長、教務主事、学生主事、研究主事、進路指導主事、電気電子工学科長、機械工学科長、グローバル情報学科長、一般教科主任、国際交流主任、地域連携主任、事務局長により構成され、校長が議長となり、教育研究の質的向上に関する事項、学則その他規則に関する事項、教育課程編成に関する事項、学籍に関する事項、厚生補導に関する事項など、学事全般について審議します。

2. 教務委員会（図 2-2 ③）

教務主事が議長となり、教務運営の方針及び教育実施状況の把握に関する事項について審議します。

3. 厚生補導委員会（図 2-2④）

学生主事が議長となり、学生の厚生補導に関する事項について審議します。

4. 進路指導委員会（図 2-2 ⑤）

進路指導主事が議長となり、進路指導の方針及び進路指導状況の把握に関する事項について審議すると共に学生の進路に関する支援を行ないます。

2.2 教育支援・学習支援組織と機能

学生の学習や生活支援を行なう組織として、また、教育の充実に向けた支援組織として、各種の支援センターを設けています。各センターの学生支援活動は次のとおりです。

① ライブラリーセンター



ライブラリーセンターは、教室や実験室で得た知識をさらに深める場として開館した新しい概念の図書館で、「学習支援」「研究支援」「卒業生支援」「地域の情報センター」としての役割を担っています。利用時間は年間 340 日、平日は 22 時まで開館しており、就職や授業と連携した文書添削指導の機能を有するライティングセンター、専門基礎学力の増進プログラムを運営する学習支援デスク、マルチメディア技術の修得を目的としたマルチメディア考房を有しています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kitle/> で紹介しています。

② 情報処理サービスセンター



情報処理サービスセンターは、コンピュータ、ネットワーク等の IT による教育研究の支援及び IT 関連教育の推進を担っています。本校では、全学生にノートブック型パソコンを貸与するなど、IT 教育の充実に努めています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/dpc/> で紹介しています。

③ 自己開発センター



自己開発センターは、資格取得による学生の総合的な能力向上の推進を担っており、各種の資格試験の情報提供をはじめ、資格取得のための講習会も多数開催しています。また、既に資格を取得した学生が、今から資格取得を目指す学生を教える、「学生と学生の学び合いの場」も運営しています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku/> で紹介しています。

④ プロジェクト教育センター



プロジェクト教育センターは、ものづくり機能を有する夢考房と、健康管理や体力の向上の機能を有するスポーツ考房から成り、夢考房は年間 300 日、平日は 21 時まで、土日は 17 時まで開館しており、ものづくりのための安全や装置機器の取扱講習会を年間 345 回実施すると共に学生プロジェクトである夢考房プロジェクトを支援しています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>で紹介しています。

⑤ イノベーション&デザインスタジオ



イノベーション&デザインスタジオは、「グローバル人材の育成」と「イノベーション力の育成」をキーワードに、授業・授業外の予習復習・課外教育プログラムの充実に向けた新しい形の教室環境です。平日は 21 時まで開館しており、アクティブラーニングや学生間のチームラーニングなどで活用できる学習環境です。

⑥ 学生ステーション



学生ステーションは、学年・学科の異なる学生同士が、共通の話題で対話し、自由な活動を通じて自己成長を行う場です。平日は、21 時までオープンしており、学生主体の交流イベント、講習会の実施を行なっています。

詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/gstation/>で紹介しています。

⑦ 地域連携教育センター



本校と地域社会の連携協力を行なう拠点として、地域連携教育センター (Center for Community-Arranged Education 「CCAIE」) を設置しています。地域社会と学生を結ぶ架け橋として、出張授業の受け付けを行なっています。産学連携の窓口として企業とのコーディネートも担当しています。また、数学、理科科目の個別指導など、本校学生への学習支援を行っています。

詳細は、<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/cooperation/community/>で紹介しています。

⑧ 自習室



自習には、個人で自習する場合と、複数人もしくはチームで自習する形態があります。本学には個人利用の自習室に加えて、チームでも使用できる自習室として、いつでも課外学習に取り組めるよう、235 席を有する 365 日 24 時間オープンの自習室があります。平成 28 年度の利用者数はのべ 59 万人です。

⑨ 穴水湾自然学苑



穴水湾自然学苑は、扇が丘から北北東へおよそ 100 キロ、車で約 2 時間の能登半島国定公園の景勝地、穴水町由比ヶ丘にあります。ここには鉄筋 4 階建、収容人数約 150 名の本館をはじめ、体育館、グラウンド、専用のヨットハーバーがあり、ハーバーには、艇庫、調査研究船、外洋クルーザー、ヨットなどが揃っています。1 年次、3 年次の各々の必修科目である「人間と自然Ⅰ・Ⅱ」を開講し、各年次で 2 泊 3 日の合宿形式による集中授業を行なっています。

⑩ 天池自然学苑



天池自然学苑は、本学園のメインキャンパスである扇が丘キャンパスからバスでおよそ 25 分の金沢市南東部の丘陵地に位置し、体育館、サッカー場、ラグビー場、野球場、ゴルフ練習場などがあり、学生の課外活動に使用しています。

⑪ 池の平セミナーハウス



池の平セミナーハウスは、本学園のメインキャンパスである扇が丘キャンパスから自動車で約 3 時間の、新潟県の妙高高原にある収容人数 60 名の施設です。ここでは、5 年次の「人間と自然Ⅲ」を開講し、2 泊 3 日の合宿形式による集中授業を行っています。

3. 教員

3.1 教員の構成

本校の専任教員の人数の推移を図 3-1 に示します。図中の数値は、専任教員の人数です。

なお、平成 29 年度の専任教員は 60 名、非常勤教員は 9 名となっています。



図 3-1 専任教員の人数

3.2 専任教員

(1) 所属別専任教員数

平成 29 年度の所属別の専任教員数を表 3-1 に示します。60 名の専任教員が所属し、一人当たりの学生数は 8.2 名となっています。また、年齢構成は 20 歳代 6 名、30 歳代 18 名、40 歳代 19 名、50 歳代 11 名、60 歳代 6 名です。

表 3-1 所属別教員数

所 属	教授	准教授	講師	助教	計
校長・副校長	3	—	—	—	3
電気電子工学科	3	4	2	—	9
機械工学科	3	2	3	2	10
グローバル情報学科	6	6	1	1	14
一般教科	8	4	10	2	24
合 計	23	16	16	5	60

単位：人

(2) 外国人教員数

外国人教員数の推移を図 3-2 に示します。英会話教員に加え、平成 20 年度より専門教育を教える外国人教員の採用を始め、平成 22 年度には各学科に 2 名の外国人教員を配属するに至りました。

従来から教育の柱としてきた「ものづくり教育」と「英語教育」を統合した新たな教育プログラム「工学・英語協同学習」を平成 21 年度より本格的に開始しました。これは、各専門科目を英語で学ぶことによりグローバル化に即した技術者の育成を目指すものです。なお、平成 29 年度の専門教育を教える外国人教員配属人数は、電気電子工学科が 3 名、機械工学科が 3 名、グローバル情報学科が 3 名となっています。

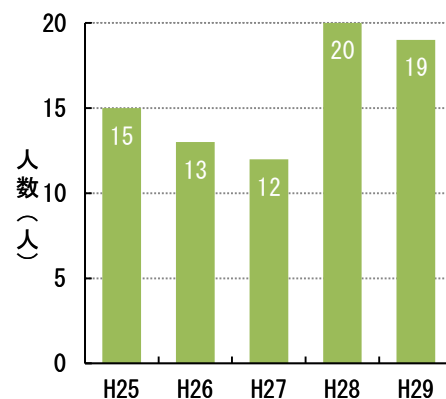


図 3-2 外国人教員の人数

(3) 教員紹介

本校教員のプロフィール等の詳細は、次のホームページで紹介しています。

- 一般教科 http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/i_index/i_teacher/
- 電気電子工学科 http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/t_index/t_teacher/
- 機械工学科 http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/m_index/m_teacher/
- グローバル情報学科 http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/j_index/j_teacher/

(4) 教員の業績紹介

本校教員の保有学位を含む業績は、次のホームページで紹介しています。

- Research map（リサーチマップ） <http://researchmap.jp/>

サイト内 TOP ページの「研究者検索」を選択し、所属で「金沢工業高等専門学校」と入力してください。

【検索学科名】

一般教科、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科

4. 志願者・在学者・卒業者の状況

4.1 志願者・入学者の状況

平成 29 年度の志願者状況、入学者状況を表 4-1 に示します。留学生、編入学生及び社会人学生の志願・受験はありませんでした。過去の入学者数は、26 年度が 111 名、27 年度が 114 名、28 年度が 112 名でした。

表 4-1 平成 29 年度入学試験結果

区 分	学 科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
推薦試験	電気電子工学科	—	5	5	5	5
	機械工学科	—	8	8	6	6
	グローバル情報学科	—	14	14	13	13
	計	—	27	27	24	24
一般試験	電気電子工学科	—	36	36	30	16
	機械工学科	—	37	36	29	18
	グローバル情報学科	—	27	27	26	15
	計	—	100	99	85	49
全体	電気電子工学科	40	41	41	35	21
	機械工学科	40	45	44	35	24
	グローバル情報学科	40	41	41	39	28
	合 計	120	127	126	109	73

単位：人

4.2 在学者の状況

平成 29 年度の在学者数(平成 29 年 5 月 1 日現在)を表 4-2 に示します。留学生、編入学生及び社会人学生の在籍はありません。また、平成 29 年度の収容定員充足率は 81.6%です。なお、平成 28 年度の退学・除籍者数は 17 名で、同年 5 月 1 日時点の在学生数 550 名で除した中退率は 3.0%でした。また、留年者数は 8 名でした。

表 4-2 在学者数

学科名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	合計
電気電子工学科	25	29	29	36	24	143
機械工学科	26	30	36	30	39	161
グローバル情報学科	30	45	40	—	—	115
グローバル情報工学科	—	—	1	27	40	68
合 計	81	104	106	93	103	487

単位：人

4.3 進路状況

平成 28 年度の学科別進路状況を表 4-3 に示します。なお、卒業者には準学士(工学)が授与されます。開校以来の学位授与数は(平成 28 年度卒業生まで)は、6,086 件となっています。卒業生の進路の詳細は、<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/careers/>で紹介しています。

表 4-3 学科別進路状況(平成 29 年 3 月卒業生)

学 科	卒業生数 (人)	進学者数 (人)	就職希望者数 (人)	就職者数 (人)	就職率 (%)	自営・その他 (人)
電気電子工学科	31	7	24	24	100	—
機械工学科	38	13	24	24	100	1
グローバル情報工学科	42	15	27	27	100	—
合 計	111	35	75	75	100	1

5. 授業

5.1 本校教育の特色

(1) ものづくり教育

本校は、昭和 37 年に創立された学校法人金沢工業大学が設置する高等専門学校で、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科の 3 学科で構成されています。「人間形成」「技術革新」「産学協同」を建学綱領とし、金沢工業大学と共有する教育研究環境の下、専門科目と一般科目をくさび形に編成したカリキュラムにより、実践的・創造的技術者の養成を目的に 5 年一貫教育を実施してきました。

また、平成 19～21 年度の文部科学省「ものづくり技術者育成支援事業」に機械工学科が応募した『16 歳からの「将来の工場長」、育成教育プログラムの開発と実施』が採択されたことを受け、地元企業・団体との産学連携により、ものづくり現場全体を俯瞰できる技術者育成教育に取り組んでいます。その一方で、産業のグローバル化に対応できる人材の育成に向けた教育を、本校の大きな特色として形づくってきました。

(2) 英語教育と海外協力提携校との交流プログラム

英語教育に力を入れている本校は、平成 4 年に『外国人教員による少人数英語教育』を開始し、現在は 20 名の外国人教員が専任教員として教鞭をとっています。本校に入学してくる学生の多くは、中学時代から英語を苦手としているため、授業はゲーム感覚で英語の音に慣れるところから入ります。外国人教員とふれあう喜びが、苦手としていた英語への壁を低くしています。

① 2 年次 夏休み海外英語研修 米国セントマイケルズ大学（希望者のみ）

2 年次の夏期休暇を利用し、アメリカのセントマイケルズ大学において約 1 ヶ月の『アメリカ英語研修』を実施しています。平成 6 年度より実施されたこの研修は、英語圏での生活を通じた言語体験をさせるため、両校のアイデアを結集し作成されたもので、多い時は対象学生の半数近くが参加しました。アメリカ人高校生や大学生約 20 名が、週 30 時間以上の授業やフィールドトリップにて、本校学生のパートナーとなり毎日行動を共にすることにより、英語や文化への興味が一層高まります。

平成 28 年度（第 22 回）は 7 月 11 日から 8 月 11 日にかけて実施され、電気電子工学科 4 名、機械工学科 11 名、グローバル情報学科 16 名、計 31 名が参加しました。

② 3 年次 1 年間ニュージーランド留学 オタゴ・ポリテクニク（希望者のみ）

平成 16 年度よりニュージーランド国立オタゴ・ポリテクニク（以下 OP）と共同開発した 1 年間の『OP 留学プログラム』を正規カリキュラムに導入しました。このプログラムは本校 3 年次の単位を認定できるよう開発したユニークなものです。ホームステイ先家族との生活は、日本で思い描いていた海外と、実際に生活し異文化に直にふれた際の違いを体験することになり、また、黙っているだけでは意思が伝わらない環境で、コミュニケーション能力の重要性を認識することになります。OP 留学では、英語や工学以外にも、人間形成の面で多くのことを体験することにより学ぶことができます。

平成 28 年度は、電気電子工学科 2 名、機械工学科 3 名、グローバル情報工学科 7 名、計 12 名が参加し、平成 29 年度は電気電子工学科 1 名、機械工学科 3 名、グローバル情報学科 12 名の計 16 名を派遣しています。

③ 4 年次 1 週間シンガポール修学旅行 シンガポール・ポリテクニク

本校は、海外への修学旅行がまだ一般的でなかった 30 数年前より、約 1 週間の『シンガポール修学旅行』を実施しています。スケジュールには、観光以外に、シンガポール・ポリテクニクの学生との交流会やスポーツ交歓会などが含まれています。学生は、アジアの中で英語を公用語として発展している国を見

ることで、英語の重要性を再認識します。平成 28 年度（第 35 回）は 11 月 4 日から 11 月 11 日にかけて実施し、電気電子工学科 24 名、機械工学科 39 名、グローバル情報工学科 39 名、計 102 名が参加しました。

また平成元年からは、同校学生を受け入れる MILE プログラムを続けています。平成 28 年度は 12 月 11 日から 12 月 20 日に 27 回目となる同プログラムを実施し、学生 12 名と引率教員 1 名が学生宅にホームステイしながら日本の文化、習慣、産業そして言語などを学びました。

(3) 工学・英語協同学習（CLE²）

本校は、OP 留学プログラムで得たノウハウを持って、グローバル化に即した教育を本校キャンパスにおいても実施するため、平成 20 年、OP 及び米国ロチェスター工科大学より、工科系専門科目を担当する外国人教員を 3 名採用し、『工学・英語協同学習』を開始しました。翌年には各学科 2 名の外国人専門教員を配属するに至り、英語を使った専門教育が全学科全学年で実施できるようになりました。



図 5-1 工学・英語協同学習

平成 21 年度、本校は『5 年一貫の工学・英語協同学習と Faculty Development（以下 FD）活動 ～グローバル化に即した実践型技術者養成教育の開発と実施～』というテーマで、文部科学省「大学教育・学生支援事業【テーマ A】大学教育推進プログラム」に採択されました。

この取組の目的は、中学校を卒業したばかりの早期よりグローバル化に対応した体験重視型の専門教育を実施することで、グローバル社会での活躍が期待できる若き技術者を養成することにあります。また、外国人教員と日本人教員との協同による授業と FD を行なう狙いは、グローバル化に即した実践型教育『工学・英語協同学習』を開発することにあります。これにより、英語のみによる専門授業（選択科目）や、英語でもプレゼンテーションを行なうポスターセッション、外国人教員による卒業研究指導などが実現しました。

平成 22 年度からは、「学生が教師役となる体験型授業」を開始しました。これは、4 年次の「上級英語 I」履修者が下級生のクラスや中学校へ出向き科学の教師役を演じるものです。その内容は工学に関係し、コミュニケーション手段は英語に限定されます。他者に教えることが、本人にとって最も効果的な学習方法となることから、その成果が期待されます。また、平成 22 年度から海外インターンシップを開始し、平成 28 年度は、3 月 15 日～26 日の日程で、4 年次の 2 名がタイ王国にて就業体験を行ないました。

本取組では、「卒業時に、主体的に外国人技術者と協力して業務を遂行することができる」を達成目標に

置いています。そのため、学生が体験を通じて自らの成長を実感し、自信と積極性を身につけていくことが成功への鍵となります。また、本取組は、これまで何年もかけて培ってきた本校の特色を基盤とするものであり、教育の工夫・改善を通じて生まれたものです。また、出前授業は中学生の英語や理科への関心を高め、技術者との協働は地域産業界のグローバル化対策への支援を行なうという観点からも大いに意義があると考えています。平成 24 年 8 月 22 日には日本工学教育協会より、本取組が高等教育機関における工学教育の質的向上に貢献する波及性の高い業績を上げていると高く評価され「工学教育賞」を受賞しました。

本校は、工学・英語協同学習の推進を重要テーマに位置づけ、卒業生がグローバル社会に即応できるよう今後も教育改善に努めてまいります。

(4) 少人数教育

本校は、技術の高度化とグローバル化に適合する 21 世紀型技術者を育成するため、創造性を培う『ものづくり教育』とコミュニケーション能力を高める『英語教育』に重きを置いた実践的教育を行なっています。

「ものづくり教育」の核となる科目「創造実験」では、5～15 人程度の少人数グループによるものづくり教育により、学生が、ものづくり過程における成功・失敗の体験を通し、問題発見能力や創造性を高め、技術者としての知識・技能・態度を身につけることを狙いとしています。電気電子工学科は「創造実験Ⅳ」にて、機械工学科は「創造設計Ⅳ」及び「機械工学実験」にて、グローバル情報工学科は「創造実験Ⅰ～Ⅳ」にて少人数教育を実施します。

「英語教育」では外国人教員による英会話の授業にて、教員と学生或いは学生間で活発な会話が行なわれるよう、15 人程度の少人数クラスを設け実践的な教育を行ないます。「総合英語Ⅰ」や「英語スキルズⅠ～Ⅲ」では全学科にて少人数教育を実施しています。それぞれの授業で少人数教育の特長を活かし、学生の主体的な取組みを促進しています。

(5) ラーニングエクスプレス

平成 29 年 3 月、「ラーニングエクスプレス 2017」に電気電子工学科 4 年生 3 名、機械工学科 4 年生 2 名、グローバル情報工学科 4 年生 1 名が参加しました。「ラーニングエクスプレス」とは、異なる国の学生たちが開発途上国や地域を訪問し、フィールドワークを通して地域発展、環境問題、持続可能な社会などの観点からの問題発見・問題解決策を提案し実施するという国際的ソーシャルイノベーションプロジェクトです。本校が参加して 4 度目となる今回は、日本（本校及び金沢工業大学）、シンガポール、タイの学生たちがタイ・チェンマイ市近郊の村を訪問し、デザイン思考の手法を用いて提案を行いました。学生たちにとって生涯の糧となる良い経験になっています。

また、「ラーニングエクスプレス」は、未来志向の先進的な学びを支援する「平成 27 年度第 2 回朝日みらい教育賞」（主催：朝日新聞社）に選ばれました。

5.2 主要科目の特長や目標等

(1) 人間と自然Ⅰ・Ⅱ

能登半島国定公園内の穴水湾自然学苑にて実施される合宿研修「人間と自然（1 年次、3 年次にて開講）」は、本校教育の根本理念である「人間形成」を具現化する科目として位置づけられています。

この科目は、大自然の中で学生と教員が寝食を共にし、海洋活動（カッター漕艇、遠漕、帆走）、グループ討議（ブレインストーミング、資料作成、発表）、クラスミーティング、講話（苑長講話、校長講話、学科長講話、歴史講話）などの活動プログラムや団体生活を通じ、学生同士或いは学生と教員とが積極的にコ

コミュニケーションを図り互いの信頼関係を深め、科目の到達目標である「思いやる心を育み倫理観を養うこと」、「チームワークの大切さを知りリーダーシップを発揮できること」、「日本人としての自覚を深めること」の実践に努めています。

(2) 創造実験Ⅰ～Ⅳ、創造設計Ⅰ～Ⅳ

電気電子工学科及びグローバル情報工学科では「創造実験Ⅰ～Ⅳ、卒業研究」を、機械工学科では「創造設計Ⅰ～Ⅳ、卒業研究」を5年間一貫教育の柱として位置づけています。「創造実験」「創造設計」では、各分野における専門科目の知識がなぜ必要なのか、また、どのように活かすことができるのかを自ら考えることが重要であると考えます。ものづくりをテーマとして、学生自らの気づきを促し、学習意欲の増進に繋げるべく取り組みを進めています。そのため、各専門科目の配置も可能なかぎり創造実験との関連を重視した配置とすることで、各学科の専門基礎知識の定着と創造性の醸成を目指しています。また、各学科の専門分野については、産業界のニーズを捉え、学生に求められる基礎的能力や知識が学べるように努めています。さらに5年次では、高専教育の集大成を図るべく卒業研究として、「能力の総合化」を実践しています。

(3) キャリアデザイン

人間には、自分が持つ能力が生かされ、価値観や態度を素直に表現でき、自分が納得できる役割を引き受けさせてくれるような環境を求める欲求があります。節目々々でしっかり意思決定を行なわなければ、単に状況に自分を合わせることで心からの成功を得ることができません。本校では、自分を一番生かせる道へ進むため、特別活動の時間を利用しキャリアデザインを行なっています。「ものづくり教育」はまた“自分づくり教育”でもあり、キャリア（専門能力、人間力の醸成）の発達が促進されます。キャリアデザインにより自己理解を深め、自身で意思決定を行ない、自己実現に向けて主体的に行なう姿勢を身につけていきます。つまり、自立／自律型の人材を育成するプログラムです。

(4) インターンシップ

4年次の夏期休業中の約2週間に、インターンシップ（選択科目）が実施されます。本校では、開校以来、ほぼ全ての学生がこのインターンシップを受講しています。インターンシップは、単に企業での経験を積むだけではなく、企業内におけるコミュニケーションを肌で体験し、それまで学習した知識や技術を社会の場において活用することによって、学生自身がそれまでの学習を自己点検すると共に、残りの学生生活において、何を目標に学習するのかを「自ら考える」ことを大切にしており、新たな学習計画を立てる上で重要な位置づけとなっています。特に、5年次の「卒業研究」の準備教育として、インターンシップ終了後に行なわれる報告会は、学生の更なる「自己啓発」の動機づけとなっています。

(5) 卒業研究

卒業研究は、学生がそれまで身につけてきた力を発揮する集大成の科目となっています。卒業研究で学生が取り組むテーマは、実際のものづくりに力点を置いたものが多く、企業において実際に取り組むレベルのテーマも含まれます。学生は、これらのテーマに取り組むことにより、それまで学んだ知識・技術・経験を活かして、ものやシステムの製作・開発を行ないます。また、これら一連のプロセスを、最終的に研究論文としてまとめ、第三者にプレゼンテーションをします。

このように、卒業研究では、ものづくりやシステム開発を意識して取り組むことによって、企業が必要とする「実践的な力」を身につけることができると共に、進学においては高い意識をもって、さらに深く専門

分野を「学ぶ姿勢」が身につきます。

5.3 各学科で修得する知識・能力

(1) 電気電子工学科

電気電子工学科では、電気電子関係科目と、「情報工学」「コンピュータ演習」などの情報関係科目をカリキュラムに組み入れ、電気と電子に必要な知識を修得します。2・3年次の「電気回路」「電気磁気学」において電気と磁気の関係や回路解法の知識を身につけます。4・5年次では、半導体の基礎、トランジスタやICの仕組みを理解し、「電子回路」にて電子回路設計に必要な知識を身につけていきます。情報工学に関する専門分野、電気工学と関連のある材料工学、制御工学、システム設計などの専門分野をさらに掘り下げて学習していくことにより、電気電子に関するより高度な技術に対応する能力を身につけます。「創造実験」では、「工学基礎」「電気・電子の基礎・応用」「応用・発展」と、段階を踏んで発想力を体得していき、学生が専門教育で学んだ知識を実験やものづくりの場において活用することにより、技術者としての能力を高めていきます。

また、現代産業には欠かせない通信ネットワークシステムや電気情報に関する分野も同時に学び、自ら問題発見・解決のできるエンジニアの育成を目指しています。

詳しくは、http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/t_index/で紹介しています。

(2) 機械工学科

機械工学科では、「創造設計Ⅰ」から「創造設計Ⅳ」まで、4年間のものづくりを通して機械工学の知識を身につけると同時に、メカトロニクス技術を構成する機械工学、電気工学、情報工学の3分野の技術を修得します。教室では「機械加工」、「機械製図」などの専門基礎から「材料力学」、「熱力学」などの専門応用までを学習します。製図室やコンピュータ演習室での「機械設計演習」では、設計計算から図面作成までのプロセスを修得します。実験室、演習室や夢考房で行なう「創造設計Ⅳ」ではメカトロニクス技術を総合活用し、一層の磨きをかける1年間の体験テーマとして、オリジナルロボットの設計製作が用意されています。企業が実践しているものづくりの一連の流れを身につけながら、機械やシステムを総合的に把握して、設計から製品製作の現場までを有機的につなぐことのできるメカトロニクス技術に強いエンジニアの育成を目指しています。

詳しくは、http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/m_index/で紹介しています。

(3) グローバル情報学科

グローバル情報学科では、情報技術に関する専門能力と経営の知識を有し、グローバル社会においてイノベーション創出に貢献できるエンジニアの育成を目指しています。情報教育では、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術及びネットワーク構築に関する技術の修得に重点を置いています。「創造設計Ⅰ～Ⅳ」は、学んだ知識を・技術を総合的に活用することで能力の定着を目指すものであり、授業はグループワークやプロジェクト型の学習が主となります。また、「情報・ビジネス英語Ⅰ～Ⅲ」では、英語によるコミュニケーションの場を、日常生活から情報工学やビジネスの場へとステップアップさせ、国際社会で通用するプレゼンテーション技能やビジネス社会における英語の活用について学びます。つまり、社会において課題発見・解決ができる能力、グローバル社会で活躍できる能力を身につけるための実践的な教育を実施していきます。詳しくは、http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/j_index/で紹介しています。

(4) グローバル情報工学科

グローバル情報工学科では、コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基盤となる情報技術と、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけたエンジニアの育成を目指しています。情報教育では、プログラミングの修得に重点を置き、C言語を中心にアルゴリズムの理解とプログラミングの基礎を学びます。その上で「情報工学演習」「ソフトウェア工学」で実践的なソフトウェア開発の流れを学習し、深い知識と総合的なスキルを養成します。また「創造実験」では、簡単なコンテンツの作成から複雑なプログラム開発へと、基礎からプロセスを踏んでレベルアップし、自由な発想に基づく創造性を引き出す教育を実践しています。

詳しくは、http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/j_index/で紹介しています。

5.4 学習支援計画書（シラバス）

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画は、教育課程表及び学習支援計画書（シラバス）に明記しています。

授業科目は、一般科目と専門科目に分かれており、それぞれに必修科目と選択科目があります。

教育課程表は、次のホームページで紹介しています。

■ 電気電子工学科（平成 27 年度以降入学生適用）

http://www.kanazawa-tc.ac.jp/pdf/department/t_curriculum.pdf

■ 電気電子工学科（平成 26 年度以前入学生適用）

http://www.kanazawa-tc.ac.jp/pdf/department/e_curriculum.pdf

■ 機械工学科（平成 27 年度以降入学生適用）

http://www.kanazawa-tc.ac.jp/pdf/department/m_curriculum.pdf

■ 機械工学科（平成 26 年度以前入学生適用）

http://www.kanazawa-tc.ac.jp/pdf/department/m_curriculum_b26.pdf

■ グローバル情報学科

http://www.kanazawa-tc.ac.jp/pdf/department/j_curriculum.pdf

■ グローバル情報工学科

http://www.kanazawa-tc.ac.jp/pdf/department/g_curriculum.pdf

本校では学生の成長という観点から、学生の学習意欲を引き出し、日々の授業とその理解度に応じた教育プログラムを展開するために、あらゆる場面において学生とのコミュニケーションが重要と考え、特に授業科目については、学生と教員との教育相互契約書としての学習支援計画書がその中心的な役割を果たしています。

学習支援計画書には、①科目の基本情報、②科目概要、③教科書及び参考書情報、④授業方法、⑤評価基準（評価項目、評価方法）、⑥学生の到達目標または行動目標、⑦各回の授業内容（1年間の授業計画）と学習課題、⑧補足情報（受講上の注意、資格試験との関連、オフィスアワー）が明示されています。学習支援計画書は、科目担当者が初回の授業にて学生に配付し説明しています。

平成 29 年度学習支援計画書（シラバス）については、次のホームページで紹介しています。

■ 電気電子工学科 http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/t_index/t_curriculum/

■ 機械工学科 http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/m_index/m_curriculum/

■ グローバル情報学科・グローバル情報工学科
http://www.kanazawa-tc.ac.jp/department/j_index/j_curriculum/

5.5 単位認定と成績評価

学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況及び出席状況を総合し、学習支援計画書（シラバス）の評価基準に従って行ないます。学業成績は、各学期末に科目ごとに、それぞれの科目の担当教員が、授業時間数の5分の4以上出席している者について、その科目を履修したものと認め評価します。そして学年末成績の評価が60点（平成26年度以前入学生については50点）以上の科目について、その科目を修得したものと認定します。この評価は表5-1、表5-2に示す区分により評定され、指導要録、及び成績証明書などに記載されます。単位追認試験を受けて修得した科目の評価は60点（平成26年度以前入学生については50点）とします。なお、故意に定期試験を受けなかった場合、または懲戒処分のため試験を受けることができなかった場合には、当該の試験の成績を0点とします。

表 5-1 総合評価点数と評定（平成26年度以前入学生適用）

評点	100～80	79～60	59～50	49～0	F
評定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)	F (出席不良)

表 5-2 総合評価点数と評定（平成27年度以降入学生適用）

評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	—
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不良)	F (出席不良)
GPA	4	3	2	1	0	0

個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(Grade Point Average)ポイントを活用しています。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。また、GPAポイントによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりではなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料としています。

$$\text{GPA ポイント} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

※小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとします。

各年次における年間修得単位数上限は以下のとおりです。

表 5-3 1年（「教育課程表」平成27年度以降入学生適応）

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報学科	
		開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数
必修	一般	24	24	24	24	24	24
	専門	9	9	9	9	9	9
選択	一般	0	0	0	0	0	0
	専門	0	0	0	0	0	0
合計		33	33	33	33	33	33

表 5-4 2年(「教育課程表」平成27年度以降入学生適応)

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報学科	
		開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数
必修	一般	20	20	20	20	20	20
	専門	13	13	12	12	12	12
選択	一般	4	4	4	4	4	4
	専門	2	2	0	0	0	0
合計		39	39	36	36	36	36

表 5-5 3年(「教育課程表」平成27年度以降入学生適応)

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報学科	
		開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数
必修	一般	21	21	21	21	21	21
	専門	12	12	12	12	12	12
選択	一般	0	0	0	0	0	0
	専門	0	0	0	0	0	0
合計		33	33	33	33	33	33

表 5-6 4年(「教育課程表」平成26年度以前入学生適応)

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報工学科	
		開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数
必修	一般	1	1	1	1	1	1
	専門	22	22	24	24	24	24
選択	一般	15	7	15	7	15	7
	専門	11	9	6	6	6	6
合計		49	39	46	38	46	38

表 5-7 5年(「教育課程表」平成26年度以前入学生適応)

		電気電子工学科		機械工学科		グローバル情報工学科	
		開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数	開講科目	取得可能上限単位数
必修	一般	1	1	1	1	1	1
	専門	26	26	20	20	26	26
選択	一般	12	6	12	6	12	6
	専門	8	8	14	12	8	8
合計		47	41	47	39	47	41

5.6 進級条件及び卒業要件

進級や卒業の基準は、学則第12条に規定し、必要な学力（取得単位数）と人間性（「特別活動」「人間と自然」の教育成果）を備えた学生について、規定に基づき進級や卒業を認定しています。進級や卒業の判定に当たっては、定量的な判定資料に加え、学科単位による事前評価、全教員による予備判定会議を経て、校長・主事・学科長・主任・事務局長等からなる学務会議にて総合的に判定しています。

進級・卒業に必要な単位数を表5-8、表5-9、表5-10に示します。

表5-8 進級及び卒業に必要な単位数（全学科共通、平成26年度以前入学生適用）

		単位数	学年別配当				
			1年	2年	3年	4年	5年
合計	一般科目修得最低単位計	81	26	19	23	8	5
	専門科目修得最低単位計	89	8	14	11	26	30
	修得最低単位合計	170	34	33	34	34	35
特別活動		5	1	1	1	1	1
修得最低単位総計		175	35	34	35	35	36

表5-9 進級及び卒業に必要な単位数（平成27年度以降入学生適用：電気電子工学科）

		単位数	学年別配当				
			1年	2年	3年	4年	5年
合計	一般科目修得最低単位計	79	24	20	21	8	6
	専門科目修得最低単位計	88	9	15	12	25	27
	修得最低単位合計	167	33	35	33	33	33
特別活動		5	1	1	1	1	1
修得最低単位総計		172	34	36	34	34	34

表5-10 進級及び卒業に必要な単位数

（平成27年度以降入学生適用：機械工学科・グローバル情報学科）

		単位数	学年別配当				
			1年	2年	3年	4年	5年
合計	一般科目修得最低単位計	79	24	20	21	8	6
	専門科目修得最低単位計	88	9	12	12	26	29
	修得最低単位合計	167	33	32	33	34	35
特別活動		5	1	1	1	1	1
修得最低単位総計		172	34	33	34	35	36

5.7 アンケート調査及び教育改善

本校は、教育改善を目的に「KTC 授業アンケート調査」及び学生、教職員、卒業生、企業を対象とする「KTC 総合アンケート調査」により、授業のみならず学生支援や課外活動及び学習環境など、幅広く情報を収集しています。分析及び分析結果報告は第三者である学外の専門家に依頼し、報告書を全教職員へ配付するとともに報告会を開催し、状況の周知及び改善点の共通認識を図っています。同調査結果報告書は、ホームページにて公開しています。浮かび上がった改善点をもとに KTC 教育評価委員会が改善案を作成し、学務会議で審議された後、改善の実施へと移されます。また、各教員は、年度末に 1 年間の活動について自己点検評価し、その報告書「教育改善への取組と今年度の目標及びその成果」を校長に提出しています。さらに、授業を公開し保護者等からの意見を収集しています。

KTC 教育評価委員会は、教育力向上を目的に、年 3 回全教職員を対象に研修会を開催しています。8 月及び 12 月の「FD 研修会」では、学習意欲の向上や障害を持つ学生への支援などをテーマに、専門家による基調講演の後、グループ討議及び発表を行ない組織的教育力の向上を図っています。

さらに 3 月には、その年度の FD 活動の成果を発表する「教育成果発表会（公开发表）」を開催しています。なお、各教員が授業において実践した活動内容については、「教育成果発表会発表論文集」や「創造技術教育（教育研究報告書）」によって全教職員に公開され、個々の教員の優れた教育実践例のノウハウを共有しています。また、本校では教職員全員が「教師学」基礎講座を受講しています。

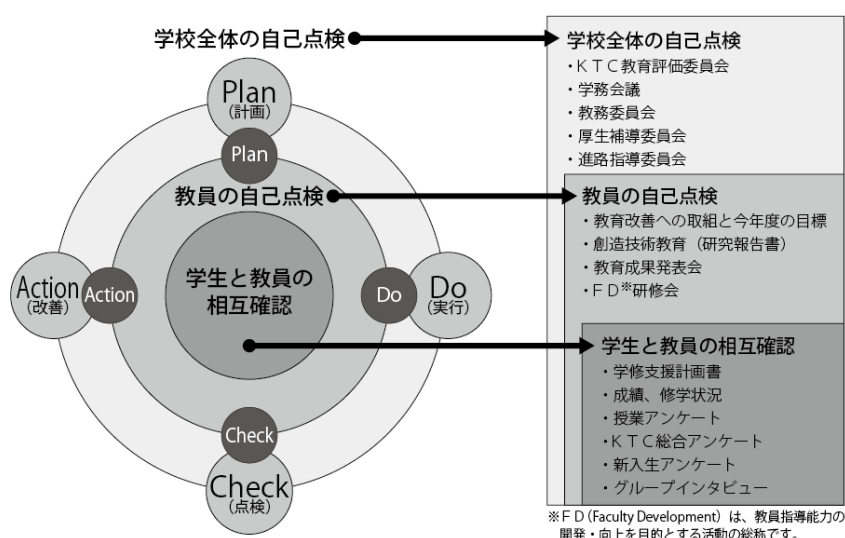


図 5-11 自己点検評価概念図

本校で開講している全ての授業科目で学生による授業アンケートを実施しています。代表的なアンケート項目とその結果は次のホームページで紹介しています。

- 授業アンケートの詳細 <http://www.kanazawa-tc.ac.jp/information/evaluation/fdequete/>
- 総合アンケートの詳細 <http://www.kanazawa-tc.ac.jp/information/evaluation/fdequete/>

6. キャンパス構成

6.1 キャンパスの所在地と構成・概要・交通手段

本校は、扇が丘キャンパスをメインキャンパスとし、他に次に示す3つのキャンパスを設けています。各々のキャンパスの所在地と校舎面積を表 6-1 に示します。

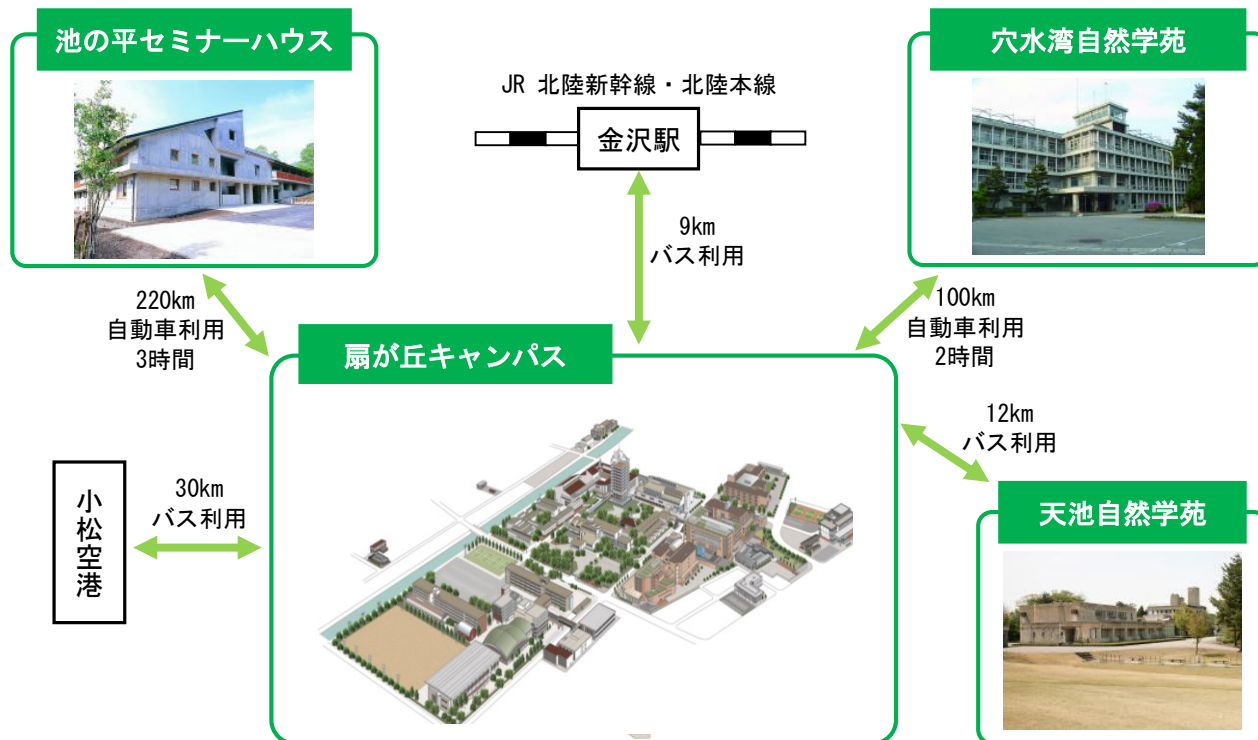


表 6-1 キャンパスの所在地等

校地名	所在地	校地面積	校舎面積 (借用建物含む)
扇が丘キャンパス	石川県野々市市扇が丘 7 番 1 号	166,606 m ²	134,007 m ²
金沢高専校舎クラブハウス	石川県金沢市久安 2-270	11,602 m ²	8,856 m ²
天池自然学苑	石川県金沢市天池 3 番地	205,687 m ²	5,347 m ²
穴水湾自然学苑	石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘	36,880 m ²	5,484 m ²
池の平セミナーハウス	新潟県妙高市池の平 2275-5	5,682 m ²	2,866 m ²

6.2 健康・体育施設

① 扇が丘診療所



専任の医員が在籍する内科診療所をキャンパス内に併設しています。体調を崩したり、風邪をひいたり、おなかの調子が悪いときなど、学内で気軽に診断が受けられ、薬の提供も行なっています。

② スポーツ考房



多彩なトレーニングマシンを完備しており、専門スタッフのアドバイスを受けながら無理なく健康増進、体力向上が可能な設備が整っています。平日は、20時まで利用可能です。

③ カウンセリングセンター



一般的にみて高専生は、思春期という人生で最も大きな心理的課題に直面する時期にいるという観点に加えて、対人関係の悩みや修学上の問題等、様々な場面で悩み、立ち止まることもあります。同時に、自分が何者で、どう生きていくのかを自分自身に問いかけ、大人としての心の成長を遂げる時期でもあります。このような背景の下、学生のメンタルヘルスに関する相談、アドバイスを目的に臨床心理士が常勤のカウンセラーとして対応します。

④ 学生食堂



約700席を有すレストランのフロアには、天窓と壁面に全面ガラスを採用し、明るく大きな空間で食事を楽しむことができます。ボリュームのあるメニューから、ヘルシーなメニュー、そして単品メニューも充実しています。学生食堂の詳細は、<http://www.kit-group.jp/>で紹介しています。

⑤ 体育施設

表 6-2 体育施設の概要

屋内施設	扇が丘キャンパス	第一体育館	体育館	1, 163 m ²	2, 605 m ²
			卓球場	431 m ²	
			剣道場	768 m ²	
			その他	243 m ²	
		第二体育館	体育館	1, 582 m ²	4, 464 m ²
			柔道場	596 m ²	
			トレーニングルーム	542 m ²	
トレーニングコート			341 m ²		
その他			1, 403 m ²		
天池自然学苑	体育館		1, 969 m ²		
穴水湾自然学苑	体育館		740 m ²		
屋外施設	扇が丘キャンパス	グラウンド		11, 548 m ²	
		テニスコート（オムニコート）		7 面	
	天池自然学苑	野球場		13, 025 m ²	
		グラウンド		15, 906 m ²	
		サブグラウンド		4, 005 m ²	
		ゴルフ練習場		16, 481 m ²	

7. 入学金・授業料・その他の費用

7.1 入学金・授業料等

(1) 入学金

入学金は、全学科（電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科）共通で、60,000 円です。

(2) 授業料等

授業料及び施設設備費は、全学科（電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科、グローバル情報工学科）共通です。表 7-1 に授業料及び施設設備費の月額を示します。

表 7-1 授業料及び施設設備費の月額

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
授業料	31,000 円	31,000 円	48,000 円	87,000 円	87,000 円
施設設備費	12,500 円	12,500 円	12,500 円	12,500 円	12,500 円
計	43,500 円	43,500 円	60,500 円	99,500 円	99,500 円

また、上記の納入金以外に、次の費用が必要となります。

① 委託会費（育友会、学生会費、同窓会入会積立金） 3,000 円／月

② 教科書・指定用品等 33,000～45,000 円

※学科によって異なりますが、目安としての金額が表示してあります。なお、教科書は学年ごとに購入します。

③ その他の教育用品（入学時に購入するものです。）

- | | | |
|-------------|--------------------------|--------|
| (a) 女子学生制服 | 61,016 円 | } 夏服含む |
| (b) 男子学生制服 | 64,714 円 | |
| (c) 体育着 | 11,416 円 | |
| (d) 体育館シューズ | 4,104 円 | |
| (e) 実験服 | 5,482 円（電気電子工学科・機械工学科のみ） | |

7.2 寮・下宿

金沢工大学園には、民間経営による指定寮があります。1部屋夕食付きで1ヵ月55,000円位が標準です。指定寮には、管理人が在中し、寮生一人ひとりの生活態度に目を配っています。

クラス担任や学生係の教員も、寮生には特に目を配らせ、健康や生活面に異変がないかを常に注意しています。病気などになった場合は、管理人がクラス担任に連絡し、場合によってはクラス担任が様子を見に行き、専門医まで連れていくこともあります。

寮・下宿相談の詳細は、<http://www.kit-group.jp/service/apartment.html>で紹介しています。

表 7-2 家賃相場

部屋のタイプ	広さ	形態	価格
アパート・マンション	6～13 帖	バス・トイレ・台所・冷暖房付き	20,000 円～73,000 円
アパート（夕食付）	6～10 帖	バス・トイレ・台所・冷暖房付き	29,000 円～66,000 円 (食費：16,000 円～21,000 円)
共同寮（夕食付）	4.5 帖～9 帖	バス・トイレ・台所共同	16,000 円～21,000 円 (食費：12,000 円～17,000 円)
共同寮（朝・夕食付）			16,000 円～21,000 円 (食費：24,000 円～25,000 円)

8. 課外活動と課外学習

本校では、正課の授業に加えて、学生の課外の活動を強く奨励しています。

8.1 学生会

学生会は、本校の学生全員が所属している学生団体で、学級委員会など 6 つの専門委員会と運動部、文化部あわせて 21 のクラブが活動しています。

(1) 学生会専門委員会

- ① 学級委員会：学生会の運営に協力します
- ② 文化委員会：文化的行事の運営に協力します
- ③ 体育委員会：体育的行事の運営に協力します
- ④ 公安委員会：校紀校風の刷新向上にあたります
- ⑤ 特教委員会：学校行事の運営に協力します
- ⑥ 部活動委員会：各部の健全な活動向上を推進します

(2) 部活動

- ① 運動部
サッカー部／卓球部／バスケットボール部／バトミントン部／柔道部／バレーボール部／スキー部／ハンドボール部／剣道部／テニス部／水泳部／野球部／陸上競技部／ソフトテニス部
- ② 文化部
写真部／美術部／吹奏楽部／放送・無線部／将棋部／電子計算機部／ハンズオン部

8.2 学科・研究室・教育支援センターによる課外の学習プログラム

学科、研究室で実施している授業外の学習プログラムで、現在 5 のプログラムに学生が積極的に参加しています。

- ① 全国高等専門学校ロボットコンテスト
- ② 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
- ③ 全国高等専門学校デザインコンペティション
- ④ 高等専門学校英語スピーチコンテスト
- ⑤ 小水力発電アイデアコンテスト

8.3 夢考房プロジェクト

夢考房プロジェクトは、グループ活動を前提として、学生メンバーが立案・調査・設計・製作・分析・評価という一連のモノづくりのプロセスを体験すると共に、スケジュール管理、予算管理、組織運営を自主的に行なう学生プロジェクトで、現在 13 のプロジェクトが運営されています。

- | | | |
|----------|-------------|-------------|
| ① 高専ロボコン | ⑥ ロボカップ | ⑪ 小型無人飛行機 |
| ② ソーラーカー | ⑦ 義手研究開発 | ⑫ 組込みソフトウェア |
| ③ エコラン | ⑧ 建築デザイン | ⑬ 人工衛星開発 |
| ④ 人力飛行機 | ⑨ メカニカルサポート | |
| ⑤ ロボット | ⑩ フォーミュラカー | |

夢考房プロジェクトの詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/project/index.html> で紹介しています。

8.4 地域連携への取り組み

地域社会との関わりは、学生の人間性、社会性を磨きます。本校では、小中学校に教員・学生を派遣し、科学実験や理数系の授業を行なうプロジェクトや、地域の清掃活動への参加など、地域社会への貢献を教育の一環としてとらえ、積極的に取り組んでいます。

(1) サイエンスパートナーシッププロジェクト

「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」(SPP) は、子どもの理科・数学への関心を育成するため、文部科学省の事業の一環として、科学技術振興機構 (JST) が実施する事業です。本校では、ものづくりや実験を通して理科や数学の楽しさを子どもたちに伝えるため、この活動に積極的に取り組んでいます。

(2) ボランティア活動

地域の清掃や献血、福祉施設への慰問など学生が積極的にボランティア活動に参加しています。

(3) 出張授業

実験や英語の授業など本校のユニークな授業を中学校で行なっています。また、工学・英語協同学習の一貫として本校学生が教師役となって授業を行なうプログラムもあります。

(4) 金沢高専先進教育推進室

金沢工業高等専門学校先進教育推進室は、工学系のグローバル人材育成のための教育プログラムや機器の開発、及びその実践を目的に設立されました。地域の小中学校、高校の生徒を対象とした出張授業や特別講座を開いたり、高齢者施設などを訪問して科学の面白さを伝えたりと、「科学コミュニケーション」による地域貢献活動を実践しています。また、活動は学生の研究や学習成果を披露し、制作物の検証実験をする場としても機能しています。この取組みは「平成 25 年度の科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞」を受賞しました。

(5) 大学コンソーシアム石川

本校では、石川県と県内の大学や短大、高専などの高等教育機関が参加する一般社団法人「大学コンソーシアム石川」に加盟しており、大学間の連携を深め、地域社会や産業との結び付きを強化しています。同法人の加盟している教育機関は以下の 20 校です。

金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢美術工芸大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、金沢医科大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、北陸学院大学、放送大学石川学習センター、金沢学院短期大学、北陸学院大学短期大学部、金城学院大学短期大学部、金沢星稜大学女子短期大学部、小松短期大学、石川工業高等専門学校、金沢工業高等専門学校

地域連携への取り組みの詳細は、<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/cooperation/community/> で紹介しています。

9. 外部評価の状況

本学では、外部評価による評価基準を積極的に導入し、社会が必要とする教育、研究、サービスの継続的な改善活動に努めるとともに、その卓越性を追求し、社会に貢献することを目指しています。

外部評価の詳細は、<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/information/evaluation/accredited/> で紹介しています。

① 大学評価・学位授与機構〔文部科学大臣認証評価機関〕

大学評価・学位授与機構の高等専門学校機構別認証評価を受け、評価基準に適合していると認定されました。

認定期間：2013 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

10. 財務情報

財務情報として、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、事業報告書及び監査報告書を、
<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/kit/status.html> で紹介しています。